

令和5年度 講演会の報告

1. はじめに

北方海域技術研究委員会では、2023年8月3日(木)に令和5年度講演会を開催しました。会場は札幌市のかでる2・7(1040会議室)で、今回は54名(うち日本技術士会会員19名、北海道本部会友8名)の参加を得て、当会飯田幹事の司会により進められました。

2. 講演会

今回の講演会では、講演1として北海道の水産食料基地としての役割に焦点をあて、北海道開発局農業水産部水産課長の的野氏を講師にお招きし、令和5年6月に策定された新たな「北海道マリナビジョン」について講演いただきました。また、講演2では脱炭素化の動きが活発な中、苫小牧港のカーボンニュートラルの取組について苫小牧港管理組合総務部長の早崎氏に講演いただきました。

○日時：令和5年8月3日(木)

14:30～17:00

○講演プログラム

開会挨拶：北方海域技術研究委員会

副代表 山口 幹人

講演1：新たな「北海道マリナビジョン」について
国土交通省 北海道開発局 農業水産部

水産課長 的野 博行 氏

講演2：苫小牧港におけるカーボンニュートラル
ポートの形成に向けた取組について

苫小牧港管理組合 総務部長 早崎 仁康 氏

閉会挨拶：北方海域技術研究委員会

副代表 林 誉命

(1) 講演1「新たな「北海道マリナビジョン」について」

まず、北海道マリナビジョンの概要として、北海道水産業の目指す姿と水産業・漁港漁村の将来像が示された下で、水産物の安定供給と水産業の健全な発展の2つの観点から各種施策が示されるフレームとなっているとの説明がありました。今回は、フレームはそのままに、情勢変化を受けて検討した施策の中身を改訂したとのこと。また、最初に策定された平成7年当初から最も重要視されている考え方として、「ハード整備だけでなく、ソフト対策と一体的な施策の導入」が掲げられているとの説明がありました。

次に、前の長期構想である「北海道マリナビジョン21」改訂以降の情勢変化について、漁業生産の推移、漁業就業者の年齢構造、海域環境の変化、水産物輸出の増加、養殖拠点の形成等についてグラフ等を用いた説明がありました。また、ビジョンの取組を実践している道内30地域へのアンケート調査に基づく達成状況、問題点・課題について述べられました。

そのうえで、新たな「北海道マリナビジョン」策定の経緯として、全3回の検討委員会や、地域関係者との意見交換会等の実施状況が紹介されました。

今回の新たな「北海道マリナビジョン」では、①養殖生産拠点の形成、②スマート水産業の推進、③カーボンニュートラルの推進、④海業振興の4点を新たな視点として取り入れたとのこと。そのうえで、資源・環境、生産・流通・加工、地域振興の観点から、日本海北部、日本海南部、エリモ以西太平洋、エリモ以東太平洋、及びオホーツク海の各地域における将来像についての紹介がありました。

最後に、新たな「北海道マリナビジョン」の実現に

向けた取組体制、実践の場となる地域独自の特色を生かした地域マリンビジョンの見直しと推進が重要であると述べられ、ご講演を閉められました。

質疑応答では、漁港における風力発電の推進や、地域の取組への支援制度、水産業と環境との調和等について熱心な質疑が行われました。



写真-1 的野 博行 講師

(2) 講演 2「苫小牧港におけるカーボンニュートラルポートの形成に向けた取組について」

講演は、ドローンによる空撮映像が印象的な苫小牧港の紹介動画から始められました。続いて、港の成長(取扱貨物量の増加)が苫小牧市の経済発展に大きく貢献してきた港であり、国内有数の貨物取扱量を誇り、内航・外航の定期航路が充実しているといった苫小牧港の特徴について説明がありました。また、近年は、釣り場の開放事業やクルーズ船の誘致など、身近な港として役割を果たしているとのことでした。

次に、苫小牧港カーボンニュートラルポート(以下、CNP と称す)形成計画についての説明がありました。まず、策定の背景や目的、経緯について述べられた上で、計画の内容としては、CNP としてのポテンシャル、基本的な事項、温室効果ガス排出量の推計、温室効果ガス削減目標及び削減計画、水素・燃料アンモニア等供給目標及び供給計画、ロードマップ、実現のための方策という構成であることが述べられました。特に、苫小牧港 CNP 形成計画では、「港湾ターミナルの脱炭素化」のみならず、目指す将来像として、「北海道・北日本への次世代エネルギーの供給拠点」、「わが国の次世代のエネルギー備蓄拠点」、「カーボンリサイクルコンビナートの形成」が掲げられていることが特徴であると強調され、環

境価値で世界から選ばれる港湾を目指し、取組を進めていくとのことでした。

さらに、CNP 形成に資する取組として、RTG(コンテナの荷役機械)のハイブリッド化が導入されており、将来的には水素 FC 化も可能であると述べられました。また、LNG バンカリング(船への燃料供給)トライアルが迫力ある映像で紹介されました。今後、大洗～苫小牧航路に就航するフェリーでは LNG を燃料とする新造船の導入が決定しているそうです。船のアイドリング時の CO2 削減を実現する陸上から船舶への電力供給もすでに漁船やタグボート、マリナーで実施されているとのことでした。

最後に、今後の進め方として、港湾法の改正を受けて、港湾脱炭素化推進協議会を立ち上げ、港湾脱炭素化推進計画の作成を行うとともに、次世代エネルギーの供給拠点の形成に向けた検討ワーキンググループ等を通じた取組を進めていくとの説明で講演を閉められました。

質疑応答では、苫小牧港におけるブルーカーボン生態系による炭素固定、洋上風力発電の可能性などについて、活発な質疑が行われました。



写真-2 早崎 仁康 講師

3. おわりに

今年度の講演会は、両講演ともに北方海域に関わる時宜を得た重要なテーマであり、貴重なご講演と参加者を交えた活発な質疑により、北海道における水産業・漁港漁村の将来像とともに、北海道随一の港湾である苫小牧港が脱炭素化を目指す構想について理解を深めることができましたと思います。

最後にお忙しい中、快くご講演をお引き受け頂いた両講師ならびに参加者の皆様に厚くお礼申し上げます。